

3国研シンポジウム

水産海洋センシングとAIによる漁場・海況予測



ふりがな たなか ゆうすけ

氏名 田中 裕介

所属 海洋研究開発機構

主な経歴、研究内容

- 2009年 京都大学理学研究科地球惑星科学専攻
修士課程修了
- 2013年から海洋研究開発機構特任技術主任
- 海洋数値モデル・データ同化システムの開発、
シミュレーションプロダクトの利用に関する
研究開発を実施

講演タイトル

『漁船が沿岸の海を見える化する
—「スマート」な沿岸漁業を目指した取り組み—』

講演要旨

日本の沿岸域では、シラス漁や旋網漁、定置網漁、さらには養殖漁業など、様々な漁業が営まれている。この海域は、漁業に加えて海運でも活発に利用されており、ゆえに科学的な観測データの取得が困難であった。一方で、資源や漁業者の減少に伴う漁獲高の減少に伴って、資源保護と操業効率化の両面から、沿岸域の海洋環境を把握する必要性が高まってきた。このような背景から、漁船をIoTデバイスにして海洋環境の実測データ量を増加させるとともに、海洋数値モデルによるシミュレーション結果や、リモートセンシングによる面的な観測データと組み合わせることで、詳細な海況を推定・予測するための研究開発を行ってきた。本講演では、開発してきた技術の紹介とともに、沿岸域での海洋環境データ・漁獲データの収集の拡大や、より高度な海況・漁場予測技術の開発、それらへの機械学習の利用の展望などについて述べる。